

# 高架下のうさぎ

法学部  
法律学科 1年

高橋 将也

うさぎはオオカミに勝てない。

それは高架橋でも同じこと。

うさぎはオオカミに蹂躪される。

俯瞰。傍観。募つていくこの世への不信感。

容赦のない弱肉強食。

オオカミよ、うさぎの肉は美味いか。

ハイエナにもライオンにも見捨てられた、衰れなうさぎの肉は美味いか。  
昼夜がりの高架下。そこは動物園ではない。飼育員はない。自由の身。

「もういいや」

諦観したうさぎは、高架橋からゆづくりと跳ねた。

無常観。厭世観。天空への帰還。一周回つて俯瞰。募らせる『その世』への不信感。

オオカミの手で、この世から二十一グラムが消えた。

『高架下のうさぎ』コメント

法学部 法律科 1年 高橋翔也

干渉すれば、自分が巻き込まれる可能性があるため、当事者以外は干渉したがりません。

しかし、この問題を解決するには、強力な第三者の存在が有効だつたりするのです。

詩は、読者が自由に解釈すべき読み物だと、私は思っています。ですので、コメントでは、私が込めた主題をあからさまに公表せず、主題のヒントだけの公表とさせていただきます。

本作は一応、ある社会問題を題材にして書いたつもりです。メディアでも盛んに取り上げられている問題なのですが、根絶はなかなか難しい問題です。未だ、それがなくなるような兆しはありません。

また、特に若年層を中心に発生する問題です。

それは、この問題の発生原因が、未熟さゆえであるから、という理由からではないかと考えられます。互いのことを認め合い、思い合えば、決して起これ得ない問題なのです。

また、この問題が厄介なのは、当事者以外の人々が干渉したがらないという点です。もし安易に